## 令和8年熊本地震

# JMAT活動報告

### 八代北部地域医療センターでの院内統括

岡山県JMAT 第3次隊（鏡野病院・津山中央病院）
2026年8月16日（日）～19日（水）　熊本県八代郡氷川町

**鏡野町国民健康保険病院　井上 智博　　竹内　志織**



岡山県医師会館にて

# 活動チームの概要

| | |
|---|---|
| **編成** | 4人（医師1・看護師2・薬剤師1）<br>薬剤師は業務調整員を兼務 |
| **所属** | 鏡野病院・津山中央病院の合同<br>鏡野病院は災害拠点病院ではない |
| **現地の役割** | 院内統括：病院に入った各県JMATの<br>取りまとめ。前の第2次隊から引継ぎ |
| **受入側** | 病院<br>JMAT調整八代地域本部（八代保健所） |
| **資格・装備** | 資格証・運転免許証、県医師会のビブス<br>連絡用スマホ・PC、現地配置車両 |



院内のJMAT本部（リハビリ室の一角）

## JMATも災害支援も、今回が初参加

# 派遣期間と派遣経緯

日本医師会の要請を受け、岡山県医師会が派遣

| | |
|---|---|
| 2026年<br>7/28 | 発災（最大震度7） |
| 8月上旬 | 先輩医師から声がかかり、参加を決定 |
| 8/12 | 出発前の予習資料を整理 |
| 8/13～14 | この病院のDMAT支援が終了し、JMATのみに<br>第2次隊が大阪のJMATから院内統括を引継ぎ |
| 8/15 | 第2次隊から引継ぎ資料を受領 |
| 8/16～19 | 院内統括を担当し、第4次隊へ引継ぎ |

参加決定は本人の記憶による。正確な日付の記録なし

## 現地入りは発災20日目

通常診療が戻り始める時期

日本医師会も8/17、九州外からの派遣体制の見直しを通知

# 活動場所




日本医師会 記者会見資料（2026年8月5日）の管轄図に加筆。印の位置はおおよそ

**「病院機能は維持されていたが、**
**地域の生活基盤には影響が残っていた」**
**（第2次隊の振り返り）**

## 八代北部地域医療センター

熊本県八代郡氷川町

届出89床の地域の病院。各県JMATによる病院支援の拠点
建物の倒壊・浸水はなし。水道は8/8に復旧
着任時は、休職などで看護師が不足
8/17以降、常勤の復帰で解消へ





八代市内の建物・家屋の被害（活動期間中に撮影）

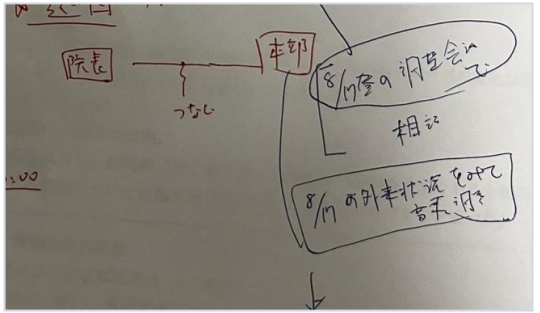
# 指揮命令系統




院内は、院長の判断を確認

**院外への派遣は、調整本部に相談**

各隊と病院、本部の間に立つ役割（当時のメモ「統括→中間管理職」）




着いた日の書き込み

# 活動内容①（時期別）

| | 8/16（日） | 8/17（月） | 8/18（火） | 8/19（水） |
|---|---|---|---|---|
| 病院 | 休日体制 | 常勤医の<br>通常外来を再開 | 入院が減り<br>空床が出る | 翌日から手術・<br>内視鏡を再開予定 |
| JMAT | 休日外来を担当<br>当隊は統括を引継ぎ | 初診と救急を<br>担当 | 診療所へ<br>2隊を派遣 | 後任へ引継ぎ<br>14時頃に業務終了 |

## 院内統括の1日

| 8:15～ | 日中 | 15:30 | 16:00～夕方 |
|---|---|---|---|
| 病院の対策会議<br>院内JMATの打合せ | 配置・受入れ・本部連絡<br>院内外の仕事探し | 八代地域の<br>JMAT全体会議 | 翌日の体制を相談<br>本部・派遣元へ報告 |

## 現地で作ったマニュアルの書き出し

初日の夜（0816版）「看護師支援が主業務」

最終日（0819版）**「JMATの医療支援ニーズは充足状態」**



翌日の配置をボードに書く（8/18）

# 活動内容②（実績・エピソード）

## 病院で活動したJMAT全体

日中の外来（8/17からは初診と救急）

| | |
|---|---|
| 8/16（日） | 12件 |
| 8/17（月） | 10件 |
| 8/18（火） | 14件 |

## 当隊が調整した院外支援

| | |
|---|---|
| 8/17 | 避難中の方の受診の送迎 |
| 8/18 | 地域の診療所へ2隊（午後） |
| 8/19 | 有料老人ホームへ1隊 |

**3件とも、院長や病院を通じて入った依頼**



院内本部で、各県のJMATと

必要とされたのは主に看護師（病棟・夕食介助）

医師・業務調整員は待機が多く、院内外で仕事を探した

第2次隊の振り返りも同じ見立て：「看護師は不足だが医師・ロジは充足」

当隊の日報より。外来件数は当隊4人だけの実績ではない。8/19の外来件数は未記録

# うまくいったこと・工夫

## 準備と、隊から隊へ渡す仕組み

| | |
|---|---|
| **準備** | 手持ちの資料をスマホで引ける形に（AIも活用）<br>統括の1日の流れを先に知り、初日から会議についていけた |
| **現地の工夫** | 人員表で、翌日の配置を前日に決める（第2次隊）<br>業務マニュアルと夕食介助の当番表を作り、<br>書き足して次の隊へ。目安は「後任が翌朝の<br>会議を一人で回せる」（第3次隊） |
| **連携** | 院長の意向 → 調整本部に共有・了承<br>→ 院内の隊から出す |
| **後方支援** | 移動・宿泊・車両・資材・資金は岡山県医師会が<br>手配。現地の活動に集中できた（第2次隊） |

AIで作った資料は個人制作・非公式。出典を付けて整理



JMAT活動レファレンス


八代北部地域医療センター　統括 JMAT 業務マニュアル（全体）

現地で作ったマニュアル

# 課題

## 院内のマンパワーは充足。一方で、院外の情報が入ってきづらかった

**最終日(8/19)の日報に書いたこと**

「院外の避難所や診療所、施設などの実態、困りごとや支援の需要内容が院内活動の範囲では把握が困難」
「団体間(JMAT(医師会)、日赤、看護協会、市町村…)の連携の全体像が分からない状態」

**院内統括として**

- どの隊も意欲は高いのに、見合った業務を渡せず歯がゆかった
- ただ、調整本部 → 院内統括 → 各隊の**指揮系統は妥当**。各隊がそれぞれの判断で動けば、現場は混乱する
- 亜急性期の課題は、**地域全体のニーズの掘り起こしと、人を割り振るフットワーク**

**次に自分が変えること(一つ)**

着任の日に、地域の情報がどこに集まり、
誰に聞けば確かめられるかを確認する

**個人の工夫では埋まらないこと**

団体をまたいだ情報の集約と、
縮小・引継ぎの手順 → 次のページの提言へ

一つの病院・4日間の院内統括から見えた範囲

# 岡山に還元したいこと

## 1 撤退期の情報を集め、移行期の判断を横から支える場を

各団体の終了予定・残るニーズ・引継ぎ先を集め、撤退も増援も含めた判断を支える
どこか1か所に頼らず、**各部署が少しずつ人と時間を出し合って作る**（地域の調整の話し合いでも共有）
今回：「団体間の連携の全体像が分からない状態」（8/19 日報）／「複数団体の予定調整」（第2次隊）

## 2 初めて関わる人が、努力しなくても、通信なしでも引ける備え

岡山で起きたら、普段災害に関わらない医療者・市民も**対応を余儀なくされる**
医療者・行政職員には業務の流れ、市民には避難所生活・相談先・応急処置の必要最低限を、平時から配る
今回：初参加の私は予習に助けられた／「活動報告だけではイメージをつかみにくい」（第2次隊）→ 岡山県版を作成（付録）

## 3 支援の縮小と、地元への引継ぎを手順にして研修へ

「一度減らすと増やすのは難しい。撤退は数隊を引っ張った上で判断」（現地で書いた縮小の原則）
記録（クロノロジー）を残し、残るニーズ・次の担当・また必要になったときの連絡先を書いて渡す
今回：DMATの記録を引き継げていなかった（第2次隊）／最終日にも避難所の薬の不足、9月に戻る域外搬送の話

八代北部地域医療センター、JMAT調整八代地域本部、各県JMAT、岡山県医師会、第2次隊、鏡野病院・津山中央病院の皆様に感謝申し上げます

# 付録　配布資料（通信なしで開けます）

## 災害時ポケットガイド 岡山県版

提言2「努力しなくても、通信なしでも引ける備え」を、県の公的資料で形にしたもの

saigai-iryo-pocket-guide.netlify.app

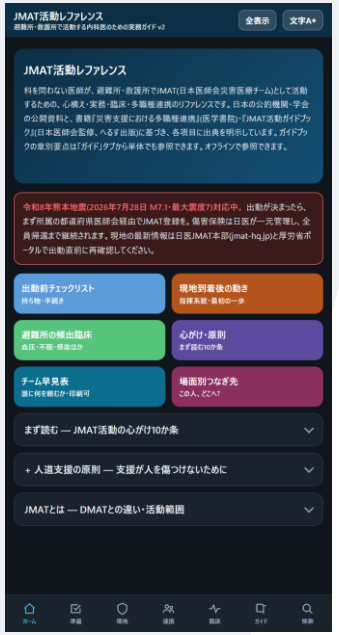



- 市民：応急手当、避難生活の健康、備え＋岡山の相談先（＃7119・＃8000）、津波の地点別の時間、真備の教訓
- 医療者：トリアージ、多数傷病者、避難所医療＋岡山県の医療需要の想定
- 支援に入る・受け入れる：県の本部の仕組み、最初にすること、受援計画の時間表、終わり方と引継ぎの目安（県マニュアル・国の通知）、倉敷の実例
- 連絡先・自分の備え：県が公開する番号と、自分で書き込む欄

岡山県と国の公的資料だけで作成。各項目に出典と確認日（県の資料は2026年10月）。書籍は案内のみ
個人制作・非公式（監修なし）。必ず最新の公式情報と、所属機関・県や市町村の本部の指示を優先。作成：演者（T.I.）

**一度開けば通信なしで見られる。A4のPDF（43ページ）も補足資料として配布**

## JMAT活動レファレンス（紹介のみ）




個人制作・非公式

- 出発前に、統括業務の概要と1日の流れを予習するために作った（8枚目）
- 書籍の内容に拠る部分が多いため、今回は配布しない
- 「初めて本部に入る人向け」の部分は、公的資料だけで岡山県版の「支援に入る・受け入れる」に作り直した（左）